



Kii-Plus Journal 創刊によせて

和歌山大学 学長／紀伊半島価値共創基幹 基幹長

伊東 千尋

Kii-Plus Journalの創刊号をお届けできることを、紀伊半島価値共創基幹 (Kii-Plus) 基幹長として大変嬉しく思います。大学組織の出版するいわゆる紀要は、研究成果を報告する媒体として大学教員のために設けられています。Kii-Plus Journalは、Kii-Plusの活動に基づく研究成果を論文として公表したり、現在進行しているプロジェクトの進捗報告をすることを主目的とするいわゆる紀要ですが、連携先となる自治体の紹介や大学への期待なども取り入れ、単なる研究論文集にならないように工夫し、地域価値共創の資料として価値ある媒体となるようにしたいと考えています。地域活動をしている皆さんにも自治体や地域活動の取り組みに関するレポートや活動の分析結果などを投稿し、発表する場としても活用していただければと考えます。地域での取り組みは、自治体の報告書となることが多いですが、多くの場合、自治体内部にとどまり、課題を共有する他の地域との連携に役立つことは少ないのが実情でしょう。地域の取り組みをKii-Plus Journalで公表することで、同様の課題をもつ自治体との連携への展開などの効果も期待できると考えます。学内外からの寄稿を期待しております。

さて、和歌山大学は、地域の熱い想いの基に設置され、以降、地域の発展を支えることを重要な使命として今日に至っています。大学の使命については紆余曲折がありましたが、平成28年に国立大学に対して三つの重点支援の枠組みが設けられ、各大学の機能強化の方向性に応じた取り組みが進められています。和歌山大学は、地域のニーズに応える人材育成・研究を推進する、いわゆる重点支援1の取り組みを進めることとして、現在に至っています。それ故、地域貢献は本学の基幹ミッションとして組織的に取り組むことが必要です。ところが、和歌山大学を含む多くの大学で進められている地域貢献活動は、教員の研究活動の一つの

テーマである場合が多く、その展開・発展は個々の研究者の意志に大きく依存しています。個別の教員がプレーヤーとしてのアクティビティを保っている間は、地域と大学との繋がりは強く、その関係を基にした色々な取り組みが実施できますが、中核となる教員が異動や退職してしまうと、地域との絆が廃れてしまうこともありました。

令和2年4月に発足したKii-Plusは、組織的な地域連携を志向した組織で、地域との「共創」に重点をおいています。地域連携がプレーヤーとしての教員により牽引されていたこれまでの取り組みに対して、Kii-Plusでは地域の人たちと大学の複数の教員が協力して価値の共創に取り組む全国的にも新しいものです。しかしながら、共創活動の実施は、実のところそう簡単ではありません。地域からみれば、大学は取っ付きにくく、やたら気難しい人たちの集まりのように見えます。一方、大学からは地域の課題の本質を掴むことが困難といった課題があります。このような課題を改善する方策の一つとして、自治体や地域の公共団体の皆さんに、地域課題を大学に持って来ていただき、大学の研究課題とすることとしました。自治体や地域の方々に、大学の教員や学生と一緒にこの課題解決に取り組んでいただくために、大学の研究員格を付与する「価値共創研究員」という制度を設けました。令和3年度は三つの機関から価値共創研究員を受け入れ、それぞれのテーマを大学の教員と一緒に進めています。今後、様々な形で地域の課題をKii-Plusに取り込み、大学が地域と共に地域価値の創造に取り組むことができればと期待しています。

最後に、この創刊第一号に寄稿していただきました学内外の皆様にご挨拶申し上げますと共に、Kii-Plus Journalが広く供覧されますことを祈念しまして、巻頭言といたします。